

議事録

会議名	令和7年度（2025年度）交付分 第1回市民企画事業補助金申請事業評価会議
日時	令和6年（2024年）12月14日（土） 午前9時30分 ～ 11時30分
会場	八王子市保健所 401会議室
参加者	岡田実、利根川育実、喜田亮子、葛西昭人、竹内千寿恵（敬称略）
欠席者	西山茂、小西睦人（敬称略）
事務局	内田協働推進課長、長尾主査、峰主任
議題	1 委員の自己紹介 2 事務局の紹介 3 市民企画事業補助金申請事業評価会議について 4 座長・副座長の選出 5 令和7年度（2025年度）補助対象事業の募集及び評価のスケジュール等について 6 その他
公開・非公開の別	公開
傍聴人の数	なし
配付資料	資料1-1 市民企画事業補助金申請事業評価会議 参加者名簿 資料1-2 市民企画事業補助金申請事業評価会議開催要綱 資料2 令和7年度（2025年度）市民企画事業補助金補助対象事業 募集要項（案） 資料3 令和7年度（2025年度）市民企画事業補助金申請事業 評価の流れ 資料4 令和7年度（2025年度）市民企画事業補助金補助対象事業の審査に関する取扱要領 資料5 令和7年度（2025年度）市民企画事業補助金 補助対象事業の採択基準（案） 資料6 令和7年度（2025年度）市民企画事業補助金 事務日程表（案） 参 考 ①審査体制・方法・評価項目等一覧 ②これまでの応募・採択件数および交付金額の推移 ③令和6年度（2024年度）市民企画事業補助金交付事業の進捗状況 応募書類 様式1 市民企画事業補助金申込書 様式2 市民企画事業実施計画書 様式3 市民企画事業収支計算書 確認書 公開プレゼンテーション確認書
会議の内容	① 内田協働推進課長 挨拶 ② 各参加者の自己紹介 ③ 事務局職員の紹介

	<p>④ 市民企画事業補助金申請事業評価会議についての説明</p> <p>⑤ 座長副座長の選出</p> <p>要綱第4条に基づき、互選により選任することになっているが、事務局からの提案により、以下のとおり決定した。</p> <p>座長：岡田委員</p> <p>副座長：西山委員</p> <p><以降、岡田座長が進行></p>
	<p>⑥ 資料2を基に制度の概要と補助対象事業の募集について事務局から説明。</p> <p><質疑応答></p> <p>座長</p> <p>A部門もプレゼンテーションを行うことによる効果は。</p> <p>事務局</p> <p>今までA部門は書類審査だけだったため、書類の書き方により採択・不採択が左右されていた。書類はあまり上手に書けていないが、団体として活動する思いがあって、将来のビジョンをきちんと持っている団体もいるので、そういった団体に資金的な支援をしたい。また、今までは書類審査の中で、委員からの質問があった場合、事務局がメールで各団体に確認して回答するという形だったが、直接口頭で聞くことにより、より理解が深まる。応募件数が増えることが予想されるので、B・C部門より少し短くプレゼンしていただき、それに対して質疑することを考えている。</p> <p>座長</p> <p>高齢者の方が多い団体はパワーポイントに慣れていなかったり、A部門はさらに慣れていない団体が多いのではないかと。必ずしもパワーポイントでなくても、口頭での発表だけでも良いなどの形となるか。</p> <p>事務局</p> <p>例えば写真など団体の活動をイメージできるものを画面に映して、事業の概略についても事務局が説明し、プラスアルファの部分を発表してもらうことも考えられる。</p> <p>座長</p> <p>以前に応募があった事業で、毎年補助がないと続かない事業の場合は、この制度で補助する対象としては適切ではないのではないかと、という意見から不採択となった事例があった。今回、A部門・B部門について2回目以降の補助率を下げたのは、そういった背景もあるのか。</p>

事務局

この制度は自立運営をめざす団体を応援する意図がある。応募事業の中には補助金ありきになってしまっている場合もあるが、団体として資金を獲得することを考えていただくためにも2回目の補助率を少し低く設定した。

委員

人件費は補助対象となるか。

事務局

団体のメンバーに対する人件費は補助対象としない。

委員

プレゼンテーションは、例えばパワーポイント1枚につき1分で、いかに効果的に発表を行うことができるかという力を培う効果もある。団体の活動を知ってもらうことで、初めて次の段階に進めるというところがある。プレゼン力を磨いていかないと持続可能な活動にはつながらないため、そういった意味では全部門で公開プレゼンテーションを行うことは非常に良いと思う。プレゼンテーションについては市民活動支援センターがサポートできるのか。

事務局

団体から相談があれば対応する。市民活動支援センターが市民活動団体向けに行っているパワーアップ講座など、団体運営に関する講座を積極的に受けってもらうようPRしたいと考えている。

委員

助成金や補助金は、応募自体が団体の成長につながる。応募書類に書くことで自分たちの事業をまとめたり、プレゼンテーションすることで人に伝えたりする経験を積むというのは、採択されなかったとしても意味のあることである。継続性の観点でいうと、事業が継続していくためにどのように計画しているのかということは審査の一番重要なポイントの一つではあるが、地域に密着した事業では、例え続かなかったとしても、1回でも地域で行ったことによる一定の波及効果が生まれると思う。

委員

子育て世代の方が2、3人集まって何か地域でやってみようという活動が増えているように感じる。また、シニアの方もリタイア後に何か地域貢献として少人数でもやってみようという事例が増えている。公益的な活動の担い手が少し変化していると感じる。この補助金がスタートアップやチャレンジを後押しするのであれば、例えば人数の要件

を少し緩和するなどがあっても良いと思う。始めたばかりの団体が5人集まることは少し難しい。スタートアップをターゲットにするのであれば2, 3人でも良いのではないか。

座 長

団体の要件としてメンバーが最低5人というのは以前から変わらないのか。

事務局

以前から変わらない。B・C部門についてはある程度組織化された団体でなければ難しいため、5人という要件は維持したいが、A部門に関しては、最近の応募団体を見ると、少人数の団体からの申請は多いと感じている。意見を踏まえて、今回はA部門のみ団体のメンバーの要件を5人から3人に下げ、事業内容や実現性については応募書類やプレゼンテーションで委員に判断いただく。3人に緩和したことによる効果がなければ、来年度以降、再度見直していくことにしたいと思う。

座 長

応募事業数が年々減少している。資金獲得の方法が増えていることによるものもあるが、応募事業の母数が増えればより公益的な事業の応募も増える。応募要件を3人以上の団体として間口を広げることで、母数を増やすことができると考える。

委 員

従前の募集要項だけでは、応募するハードルはかなり高いように感じる。チラシを作成したり、市のSNSでPRを行い、こういった事業なら応募できる、初めての活動でも応募できるなど、そういった呼びかけを行った方がよい。

事務局

今回はチラシを作成し、SNS等の活用により、より広くPRしていくようにする。しかし、応募に際しては募集要項をきちんと読んでもらう必要があるため、そこは説明会や個別相談で説明していく。

⑦ 資料3～5を基に評価の流れ、採択基準について事務局から説明。

<質疑応答>

事務局

評価は、3段階で行う。

応募事業が要件を満たしているか、提出書類に不備がないか等を事務局が確認。

次に予備評価として、応募事業の内容に関連する市の所管課が、市や国、他の地方自治体及びそれらの外郭団体から財政的支援を受けていないことや市等との共催でないこと、事業内容が法令に違反していないこと、また市が補助金を交付することに問題がないことなどを確認。

次に評価会議参加者による評価となる。

座 長

評価項目の変更点は。

事務局

A部門に「実行性」の項目を追加した。その他は、従前の評価項目を組み替えて表記を変更しているが、評価内容に変更はない。

座 長

市の担当所管のコメントは評価の際にかなり参考としている。

事務局

プレゼンテーションの後、第2回評価会議として委員間で意見交換する時間を設ける。

座 長

今までの説明に関して、他に意見がある場合は直接事務局へ連絡してほしい。

⑧ 今後の評価会議日程について

事務局

今後のスケジュールについて、資料6「事務日程」で説明

- 第1回評価会議（本日の会議となる）
- 第2回評価会議（公開プレゼンテーション）
令和7年（2025年）4月5日（土）
会場はクリエイトホールの視聴覚室を予定している。
- 第3回評価会議
令和7年（2025年）4月12日（土）
会場はクリエイトホールの会議室
- 第2回、第3回の時間、会場については決定次第連絡する。